

## 東京オリンピック・パラリンピックの入賞メダルをリサイクル材でつくる

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会の約5000個の金・銀・銅の入賞メダルを全国から集めるリサイクル金属材で作ろうという国民参加型プロジェクトが進んでいます。主催は、東京2020組織委員会です。

このプロジェクトは、使わなくなった携帯電話・パソコン・デジタルカメラなどの小型家電を回収してメダルを製作する「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」で、国民参加で行ない、環境に配慮し、日本のテクノロジー技術を駆使することによって、リサイクル率100%を目指す活動です。もちろんオリンピック史上、初めての取り組みになります。

大津市では、この取り組みに賛同し、市役所（新館3階廃棄物減量推進課）をはじめ市内21カ所に回収ボックスを設置して、携帯電話とスマートフォンを回収しています。

そのほかパソコンや扇風機、掃除機など使用済小型家電は、市と協定を締結した宅配回収を行なっています。パソコン本体を含む3辺の合計が140cm、20kg以内の1箱分は無料ですが、パソコン本体を含まない場合や2箱目からは回収料金が必要です。

詳しくは、市のホームページまたはメダルプロジェクトのホームページ（<http://www.toshi-kouzan.jp/>）をご覧ください。

お問い合わせは、廃棄物減量推進課（TEL077-528-2802）まで。



## 「地球温暖化防止対策事例集～住宅編～」を発行しました

最近の異常気象の多発は、地球温暖化の傾向を間違いなく示しているように思われます。これに対処するためには、エネルギーの消費を減らしていくことが必要であることは理解していますが、さて、我々の生活をどのように変えていけばいいかとなると、具体的に何をすればいいのかわからないという声が聞かれます。

とりあえず、すぐに実践できることとしては、電気を消すとか、植物を育てて遮光をするなどが教育の場でよく取り上げられますが、さらに我々はエネルギーを削減するための仕組み、構造、あるいはシステムを導入して、より確実にその効果を上げる必要があります。そのためには、ある程度のコストも必要でしょう。

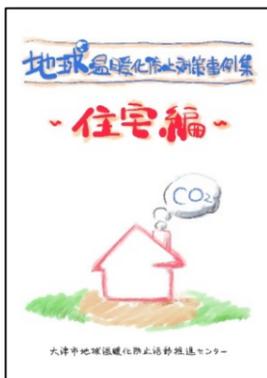
本書では、まず我々の住宅を対象として、ある程度のコストをかけて省エネ対策を行う事例を示すこととしました。

本書を作成するにあたり、多くの団体、企業、市民の皆様から、資料や対策事例をいただきました。

この冊子を、大津市地球温暖化防止活動推進センターが行う市民講座や出前講座などで使用して、一歩踏み込んだ温暖化防止対策を進めていきたいと思えます。

本書の作成には、環境省二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金を用いました。

冊子をご希望の方は、大津市地球温暖化防止活動推進センター（TEL077-526-7545、メール [info@otsu.ondanka.net](mailto:info@otsu.ondanka.net)）までご連絡ください。



## みんなの力で「おおつ市民共同節電所」をつくらう

「みんなで、大津」実行委員会では、クラウドファンディングを活用して、みなさまからいただいたご寄付で、自分たちのまちを良くしていく活動を支援する取り組みをしておられます。その中のひとつとして、「みんなの力で、『おおつ市民共同節電所』をつくらう！」という取り組みがあります。

「節電所」とは、照明のLED化を進めることによって消費電力を減らし（節電）、CO<sub>2</sub>の排出量削減を目指すものです。

今回は、明日都浜大津の3階にある大津市子育て総合支援センター「ゆめっこ」の照明をLED化することを計画。30万円のご寄付で、約30台の蛍光灯をLED化することを目指しておられます。

みんなで、大津 検索



大津市地球温暖化防止活動推進センター（特定非営利活動法人 おおつ環境フォーラム）  
〒520-0047 大津市浜大津4-1-1 明日都浜大津4F Tel: 077-526-7545 Fax: 077-526-7581  
E-mail: [info@otsu.ondanka.net](mailto:info@otsu.ondanka.net) HP: <http://otsu.ondanka.net/> 編集責任: 森口 行雄



2/24、菜の花まつり

# センター通信

No.8

2018年4月10日発行

## SDGs 研究会「持続可能な地域をつくる」開催報告（要旨）

3月6日（火）13時30分から16時まで、コラボしが21の大津商工会議所会議室にて、SDGs 研究会を開催しました。この研究会は、大津市と大津商工会議所が共催で開いたもの（実施団体：大津市地球温暖化防止活動推進センター）で、このテーマに関心のある44名が参加し、終始熱心に講演・発表に耳を傾けました。

### ★地球システムは限界に近づいている。開発は持続可能な節度が重要

最初に基調講演として滋賀県総合政策部企画調整課未来戦略係の久保田祐二さんが「SDGs で描く持続可能な滋賀づくり」をテーマに講演されました。持続可能な開発とは「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」という定義を紹介し、経済・社会・環境の3つの側面を調和させた開発こそ、今、求められており、そのためにSDGs（17の持続可能な開発目標と169のターゲット）が国連によって「2030アジェンダ」（2030年への世界目標）として採択され、すべての国のあらゆる人々が、誰一人取り残されないように「世界を変革」し、環境を守り社会不安をなくそう、という志高い理念・実践目標であることが理解できました。

### ★「サステナブル滋賀×SDGs」で、滋賀の強みを生かし伸ばそう

滋賀県では既に「しがエネルギービジョン」が策定されており、加えて農業や福祉との連携、民活による琵琶湖の魅力向上を図り、人の健康・自然の健康・社会の健康を目指す滋賀らしい「SDGsを活用した持続可能な滋賀づくり」が進められています。

国内外のモデルとなるような地域の実践的な取り組みを創出しようとしており、このことは、滋賀県に暮らす者の幸せであり誇りでもあります。温暖化が進み地球システムが限界に近づき、このままでは地球自体も、そこに住む人間の暮らしも、他の生態系も持続できないのではないかと、という危機感が現実味を持って感じられました。

### ★エネルギーを「つくる責任・つかう責任」（SDGs 目標12）

エネルギーに関わるSDGsへの取り組みを紹介いただきました。大阪ガス（滋賀地区副支配人嶽釜信一さん）と関西電力（滋賀支社コミュニケーション統括グループ副長濱田 圭さん）の2社です。両社ともエネルギー資源（素材）を生活に使えるエネルギーに変えて供給している企業ですが、つくる時に効率よく（つくる責任）、かつ消費者がエネルギーを浪費しない（つかう責任）ように多様な取り組みを展開しておられることがよく分かりました。気候変動に対応する（目標13）、再生可能エネルギーを増やす（目標7）、産業と技術革新の基礎をつくる（目標9）、そして、住み続けられるまちをつくる（目標11）、目標のために協力する（目標17）等、両社とも本業の中で既に実践していることも含め、取り組み内容は具体的で多岐にわたるものでした。

### ★琵琶湖の生物多様性を守る（SDGs 目標4、15）

積水化学工業（滋賀栗東工場安全環境課藤本浩司さん）からは本業における事業とともに、工場の端材を有効活用した魚道づくり（魚のゆりかご水田プロジェクト）と環境学習支援の取り組みが発表されました（目標4、15等）。発表を通じて、持続可能な水資源の保全と漁業・農業の振興、そして子どもたちに環境学習の場を提供し、将来にわたる持続可能な暮らしを大切にしていくことが重要であると再認識しました。

### ★何ができるか考えよう

最後に大津市センター指定団体のおおつ環境フォーラムが参加する「みんなで、大津」が取り組む照明LED化を推進する「おおつ市民共同節電所」（目標11、13）を「一人ひとり、何ができるか・何をすべきか」を考える機会として紹介し、その思いを述べました。

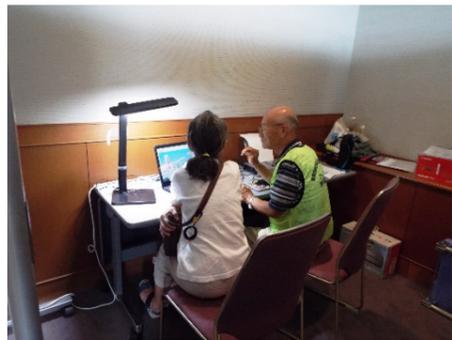
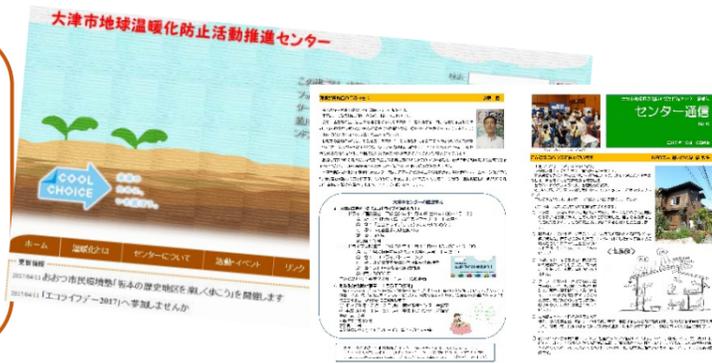
SDGs (Sustainable Development Goals)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

平成30年度の大津市地球温暖化防止活動推進センターの事業

大津市地球温暖化防止活動推進センター指定3年目の平成30年度も、地球温暖化防止や生物多様性保全などに関するさまざまな事業を展開します。楽しみに！

【情報発信】

このセンター通信の発行のほか、ホームページ (<http://otsu.ondanka.net/>) でも随時、温暖化防止など環境保全に関する情報を幅広く発信しています。一度のぞいてみてください！



【省エネの相談会、測定機器の貸し出し】

事業所向け→省エネ「見える化」診断  
家庭向け→専門家が各ご家庭の状況に応じた省エネアドバイスをを行う「うちエコ診断」や電力量測定機器の貸し出しなども行っています。



草種油を作ろう

【出前講座の開催】

地域や事業所での催し物などの際、ご家庭での省エネや身近な自然環境の講座など、ご希望に応じて開催しています。こんな場所で少し話してほしいんだけど…など、お気軽にお申し付けください。



田んぼの生きもの観察会

【エコライフデー】

「生活の中で、まずは一日環境にやさしい取り組みを！」をスローガンに実施しています。詳細は右面3ページをご覧ください。

【地球温暖化や生物多様性に関する講座】

エネルギーや資源循環に関する講座や地域の川での生きもの観察会、自然にまなび暮らしにいかす「環境塾」など、毎年ご好評をいただいているさまざまな講座を、年間を通して開催しています。各講座については、センターのホームページで随時ご案内していきます。

すべてのお問い合わせは、大津市地球温暖化防止活動推進センター (Tel077-526-7545) までお気軽にどうぞ！

【環境情報合同交流会】

環境保全などに取り組む事業者や団体などが集まり、活動に関する情報交換を通して活発な活動につながる交流の場として開催します。

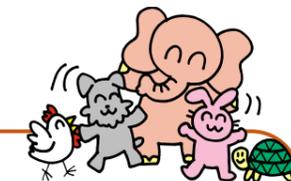


環境情報合同交流会 2017



【おおつエコフェスタ】

毎年たくさんのご家族連れに来場いただいている環境やエネルギーなどについて楽しく学べるイベント「おおつエコフェスタ」を今年度も7月29日(日)に開催します！



2017年の「エコライフデー」に5,376人がチャレンジ(年間実施報告)

2017年度のエコライフデーは夏版(7月21日を中心に実施)と冬版(1月7日を中心に実施)の2回にわたって行いました。

夏版では、2つの学区自治連合会(中央学区、南郷学区)の皆さんの他に、団体として大津友の会・龍谷大学理工学部学生有志、事業者からは関西ティーイーケイ株式会社・東洋紡株式会社総合研究所、小学校からは志賀・比叡平・藤尾・長等・逢坂・膳所小学校の4年生の皆さんにチャレンジしていただきました。全体では、1,149世帯2,970人(うち、小学4年生とその家族は375世帯1,266人)のご参加をいただきました。

エコライフデーは、定められた一日をエコな生活に心がけ、25の項目(小学生は15項目)について、普段よりもどれだけエコな生活ができたかを自分でチェックして自己採点することによって、地球温暖化防止に寄与しようという取り組みです。

夏版のエコライフデー全体のCO<sub>2</sub>削減量は4,596kg(うち、小学生の家族分671.5kg)で、一般参加世帯のエコライフ度は66.8点(100点満点)でした。25項目の取り組みのうち、よくできたベスト3は、①資源ごみの分別 ②乾燥機を使わず天日乾燥 ③使っていない部屋の照明を消す、できなかったワースト3は、①1時間早く寝る ②冷蔵庫の温度設定 ③調理に電子レンジを活用しました。

冬版(平野学区で実施)には、1,166世帯2,406人がチャレンジしていただきました。冬のエコライフデーの全体のCO<sub>2</sub>削減量は6,706kgとなりました。参加世帯のエコライフ度は72.1点で、取り組みのベスト3では2番目に「レジ袋をもらわない」が入り、できなかったワースト3には冬版らしく「給湯器の温度設定を低めに」が入りました。2017年度のエコライフデー全体のチャレンジ世帯数は2,315世帯(5,376人)で、全体のCO<sub>2</sub>排出削減量は11,302kgとなりました。

エコライフデーに参加された方の多くが、「参加したことでエコに気付いた」「エコライフを続けたい」「意識を変えていきたい」といった感想を述べておられます。

大津市センターとして今後も多くの市民の皆さんと一緒に、エコライフデーのみならず、エコに心がけた生活を営めるよう取り組みを進めていきたいと思っております。

\* 大津市センターでは2018年度も「エコライフデー」を実施します。また更に専門的にご家庭の省エネの相談を行う「うちエコ診断」も行なっています。各ご家庭で、もっと省エネできるのではないかと考えておられる方は、お気軽にセンターへご連絡ください。

